



世界レベルのプロサイクリストが合宿

5月15日から21日にかけてユクサおおすみ海の学校を中心に合宿を行ったプロサイクリストの別府史之選手が関係者と共に21日、市役所を訪れました。フランス在住でアメリカプロサイクリングチームに所属する別府さんは、初めて訪れた鹿児島について「大隅はロケーションもよく、自転車でも走りやすい。今後も機会があれば鹿屋で合宿をしたい」と話しました。



暮らしを豊かにするスマホを身近に

5月19日・20日、リナシティかのやで「スマートフォン教室」が開催されました。これは市民のICT活用向上を目指し、ソフトバンク株式会社の協力により行われたもの。45人の参加者は、講座用に配付されたスマートフォンを手に、基本操作やアプリの使い方を学び、暮らしを変えるスマートフォンの便利さを感じていました。



現場では医師の問診後、看護師により丁寧かつ迅速なワクチン接種が行われました。

安心した生活のために新型コロナウイルスワクチン接種を開始

高齢者を対象とした新型コロナウイルスワクチンの接種が始まり、初日の5月15日は高隈地区交流促進センターで集団接種が行われました。感染予防対策が行われる中、受付後に、問診、ワクチン接種、2回目の予約受付等を順番にスタッフが誘導し、予定されていた180人のワクチン接種が無事に終了。この日ワクチン接種を受けた人は「ここに来る前は不安も大きかったが、終わってほっとした。あまり痛くなく、あっという間に終わった」と話しました。



息の詰まる攻防を間近で観戦

5月22日・23日、串良平和アリーナでジャパン・バスケットボールリーグ所属「鹿児島レブナイズ」のホームゲームが開催され、岩手ビッグブルズと対戦しました。初日は、延長戦の末惜敗しましたが、2日目は88-84で勝利。訪れた観客は、間近で繰り広げられる身体のぶつかり合いや、最後まで勝敗がわからない熱戦に大興奮していました。



災害時の迅速な応急措置に対応

5月21日、市役所で防災訓練の一環として関係団体との情報伝達訓練が行われました。今回の訓練では平成28年の台風5号により発生した災害の規模を想定し、河川氾濫時の緊急対応や消防署・自衛隊への応援協力など、計8項目の情報伝達手段を実施。訓練では、WEB会議や無線を使用し、迅速かつ確実な応急措置の確認を行いました。



鹿屋体育大学PCR検査対応窓口を設置

5月10日、SB新型コロナウイルス検査センター株式会社の協力により、鹿屋体育大学に「PCR検査対応窓口」が設置されました。この窓口設置は、県外への遠征や学外実習などを行う学生や教職員への検査費用を大学が一部助成し、積極的な受診を促すことで、新型コロナウイルス感染症の早期発見、地域への感染拡大防止を図るものです。



災害に備え、排水ポンプの性能確認

5月18日、串良川沿いで固定排水ポンプの試験運転が実施されました。これは、串良町永和地区の梅雨時期や台風・大雨による浸水被害に備えたもので、今回は2つの地点で合計5基の固定排水ポンプの試験運転を実施。試験運転には近隣の住民も訪れ、満水状態の水路から排水される水の勢いや水位が下がっていく様子に驚いていました。



お茶でコロナに負けない健康づくり

5月25日、鹿屋第一ライオンズクラブから市へ給茶機が寄贈されました。これは、社会奉仕活動の一環として行っているものであり、同クラブの池畑幸作会長は「抗菌作用や免疫力向上の効果があるお茶を飲んで、コロナに負けない健康づくりの一助となれば嬉しい」と話しました。寄贈された給茶機は市役所1階市民課前に設置されています。



晴天に恵まれた食と暮らしのマルクト

5月23日、霧島ヶ丘公園で「食と暮らしのマルクト@おおすみin霧島ヶ丘公園」が開催されました。今回予定されていた県外からの出店者を招いてのグランマーケットとのコラボ開催は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により延期となりましたが、県内の35店舗が参加して開催。この日は久しぶりの晴天に恵まれ、会場は多くの来場者でにぎわいました。



自転車通学生へ交通安全意識を高める指導

5月25日、鹿屋東中学校で「交通安全啓発活動」が実施されました。活動では生徒会が中心となり、自転車通学生約300人に自転車安全利用のチラシ等を配布しながら交通安全を呼びかけました。



団結して鹿屋の飲食業を盛り上げるために

5月20日、県飲食業生活衛生同業組合鹿屋支部が発足しました。市役所を訪れた上谷田学支部長は、「加盟する市内の飲食業者で一致団結して鹿屋を盛り上げていきたい」と意気込みを語りました。



コロナ対策など地域のために寄附金を寄贈

5月18日、株式会社森栄飼糧(輝北町下百引)から、1千万円の寄附金をいただきました。同社の森義之代表取締役は「子どもの安全安心や、コロナ対策など地域のために活用してほしい」と話しました。